

IUHW

vol. **60**
April
2005

The gazette of International University of Health and Welfare



特集 1

国際医療福祉大学附属 三田病院開設

—開学10周年・附属三田病院開設記念祝賀会—

特集 2

平成16年度学部卒業式・大学院学位記授与式

特集 3

臨床医学研究センターに 新たに9施設が指定される

◆連載エッセイ「映画の心と眼」第4回
医療映画の表現を自問する
客員教授 諏訪 淳

Topics

ニッセイ同和損害保険(株)代表取締役 岡崎会長と奨学生の懇親会を開催／普通救命救急講習会の開催／平成16年度大学院博士学位論文発表会／大田原本校に薬学部棟と那須アスリーナ、福岡県大川市にリハビリテーション学部校舎が完成／医療経営管理学科の学生が大田原市社会福祉協議会から講師招聘、講演を行う／大学院新分野／公開講座「乃木坂スクール」平成17年度前期講座開講／リハビリテーション学部初めての合格発表／2005年度入試日程全て終了／介護予防モデル事業における大田原市との共同研究事業報告／笹沼澄子先生がAcademy of Aphasia の名誉会員に

写真：平成16年度博士課程修了者 左から、田平隆行(作業療法学分野)、昇寛(理学療法学分野)、福井ト子(看護学分野)、石附智奈美(作業療法学分野)、杉山直樹(放射線・情報科学分野)／敬称略

国際医療福祉大学附属三田病院開設

熱海病院に続く 附属病院が 東京に誕生

三月一日、港区三田に新たな附属病院開設

昭和八年の開設以来、東京都港区において地域医療に貢献してきた日本たばこ産業株式会社（JTI）東京専売病院を三月一日、本学が承継。国際医療福祉大学附属三田病院が新たに開設された。

当日は、午前八時に開原成允院長、大山邦雄副院長、福井康之副院長、照井静子看護部長による除幕式が執り行われ、参加した職員とともに新病院の門出を祝った。緊張したスタッフが迎える中、外来の患者様が数多く来院され、新体制での診療がいよいよ開始された。

また、脳神経外科、乳腺センター、頭頸部腫瘍センターを同時に開設した。四月には、もの忘れ・メンタルクリニック（精神科）と呼吸器センターを新設。がん診療の拠点病院を目指し、設備と陣容の整備が進められている。専門性の高い医療を実践するとともに、患者様本位の療養環境が提供されることになる。

なお、四月より独立行政法人国立病院機構東京医療センター前病院長・田中靖彦氏が院長に就任した。



職員とともに新しい門出を祝った除幕式 左から、福井康之副院長、照井静子看護部長、開原成允院長、大山邦雄副院長

東京地区で初の臨床実習施設の誕生
本学の学生は、首都圏出身者が多く、更に、大学院生の約半数は東京サテライトキャンパスで学んでいる。東京地区に臨床実習施設が新たに誕生したことで、保健学部をはじめとする本学の学生の実習・研究活動の場が広がり、各専門分野の第一人者の指導のもと、優秀な専門職が多数育成されるよう、今後期待がかけられる。

沿革

- 昭和八年 大蔵省所轄病院として開設
- 昭和十四年 日本専売公社東京病院に名称変更
- 昭和四十九年 新病院竣工（地上十一階、地下二階）
- 昭和六〇年 日本たばこ産業株式会社東京専売病院に名称変更
- 平成一七年 国際医療福祉大学が承継
- 国際医療福祉大学附属三田病院開設

開学十周年・附属三田病院開設記念祝賀会

三月五日、本学が日頃からお世話になっている教育・医療分野をはじめ各界を代表する方々や関係者約七百人を来賓としてお招きし、開学十周年と、附属三田病院の開設を記念する祝賀会を、東京・ホテルオークラで開催した。

会場には各界から届いたお祝いの花束が飾られ、華を添えていた。開会と同時に会場内のスクリーンには本学の十年間の歩みをまとめたビデオが放映され、大谷藤郎初代学長（現総長）の挨拶、平成七年の開学から現在までの学部学科や附属病院・臨床医学研究センターなどの変遷が流れたほか、日本たばこ産業株式会社代表取締役社長・本田勝彦氏から祝辞、田中靖彦先生（四月から三田病院院長就任）から挨拶があった。

続いて主催者を代表し、高木邦格理事長が、「本学が十周年を迎えられたのも皆様の善意と指導のおかげです」と、来賓の皆様へお礼を述べたほか、「専売病院の承継は光栄であり、ぜひ承継してほしいとお願いしていた日本たばこ産業株式会社の皆様に感謝を申し上げたい」、「三田病院承継にあたっては脳神経外科、整形外科、リハビリテーション部門の強化と、都心には少ないがんの拠点病院を目指し、また、もの忘れ外来の全国ネットワークのセンターとなるようにしていきたい」、「地域や地元医師会・病院と密接に連携してきた専売病院のよい所を活かしながら本学の新しい風を吹き込んで、よりよい病院にしていきたい」と挨拶した。

谷修一学長は、十年を振り返り、「本学の

卒業生は四千人を超え、全国の医療福祉施設で活躍している」、「現在、医療・福祉の現場では医療と福祉の統合や在宅医療、在宅ケアの重要性が言われており、本学でも社会の流れに対応した教育を行っていかねばならないと考えている」、「本学に入学してくる学生は、自分の将来に明確な目標を持っている、その理想や夢をより確かなものにするための教育と、より付加価値の高い知識・技術と豊かな人間性を併せ持った専門職になるよう力を入れていきたい」、「十年間に賜ったご支持、ご協力を引き続き賜りますようお願いいたします」と挨拶した。

また、来賓の丹羽雄哉・自民党社会保障制度調査会長（元厚生大臣）、武井雅昭・港区長、独立行政法人国立病院機構理事長で、本学評議員会副議長でもある矢崎義雄先生より祝辞をいただいた。

開学十周年と附属三田病院開設を祝う鐘開きのあと、慶応義塾大学医学部長・北島政樹先生のご発声による乾杯。その後、この日のために女性十九人で編成されたオーケストラによる優美な演奏をバックに歓談を楽しんだ。



開学十周年と附属三田病院開設を祝った鐘開き

国際医療福祉大学附属三田病院開設

ACCESS



地下鉄

- 都営大江戸線「赤羽橋駅」徒歩5分
- 東京メトロ南北線・都営大江戸線「麻布十番駅」徒歩8分
- 都営三田線「芝公園駅」徒歩10分
- 東京メトロ日比谷線「神谷町駅」徒歩15分

JR

山手線・京浜東北線「田町駅」徒歩20分

都バス

「中ノ橋」下車

- 都06系統 渋谷駅・新橋駅 ●反96系統 五反田駅循環
- 橋86系統 目黒駅・新橋駅

附属三田病院の概要

住所：〒108-8329 東京都港区三田1-4-3
TEL：03-3451-8121 FAX：03-3454-0067
URL：http://mita.iuhw.ac.jp

建物：鉄骨・鉄筋コンクリート（地下2階・地上11階）
延床面積：18,529.68㎡（約5,600坪）

診療科目

内科、心療内科、もの忘れ・メンタルクリニック（精神科）、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科

センター方式

乳腺センター、頭頸部腫瘍センター、呼吸器センター、予防医学センター

病床数：一般病床291床

施設基準：一般病棟入院基本料 群-1（2:1看護）理学療法（ ）作業療法（ ）言語聴覚療法（ ）その他

各種認定

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本腎臓学会認定研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本外科学会認定医制度修練施設、日本整形外科学会認定医制度研修施設、日本乳癌学会認定研修施設、日本産科婦人科学会卒後研修指導施設、日本眼科学会専門医制度研修施設、日本耳鼻咽喉科学会専門医制度研修施設、日本皮膚科学会専門医制度研修施設、日本リハビリテーション医学会認定研修施設、日本麻酔科学会認定麻酔指導病院、日本老年医学会認定施設

平成十六年度 国際医療福祉大学 卒業式・学位記授与式



三月十一日(金)、平成十六年度国際医療福祉大学卒業式並びに学位記授与式が那須アスリーナ体育館にて行われた。本年度の卒業生は、保健学部、医療福祉学部合計で七五〇名、学位記授与を受けた大学院生は二〇二名であった。博士課程では昨年の第一期生に続き、五名の博士が誕生した。(表紙の五人)

式場には、卒業生や修了生のほか、多数の父兄も出席。中には留学している娘の晴れ姿を見るため、ネパールから駆けつけた家族もいた。



谷修一学長 式辞(要旨)

本日卒業した学生は七五〇名、学位記授与を受けた大学院生は二〇二名であります。皆さんに教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。

今年は昨年に引き続き、本学の大学院として二度目となる五名の博士が誕生しました。大学院生の多くの方が、仕事と研究の両立を図るために大変な苦労をされたことと思います。私は皆さんのような社会経験を積んだ方が、学部(院)の学生とは違った意味での意欲と向上心を持って改めて大学で学び、研究をするということが、これからの我が国の大学教育の大きな流れになると考えております。

式は、コーラス部による校歌「未来への扉」斉唱から始まり、谷学長より卒業生総代の作業療法学科・若上さやかさんへ卒業証書が授与された。続いて、開原大学院院長より学位記が博士課程修了生総代・昇寛さんへ授与された。

各学部の最優秀者への学長賞の授与に続き、学長、理事長が式辞を述べた。また、来賓としてご出席いただいた渡辺喜美・衆議院議員、千保一夫・大田原市長、神野俊彦・栃木県保健福祉部次長より祝辞をいただき、卒業生代表、修了生代表がそれぞれ謝辞を述べた。

閉式後それぞれの会場で、学科別卒業証書伝達式や大学院学位記伝達式が行わ

れた。学科によつては、現代の若者らしい趣向を凝らした演出もあり、先生方や同級生、列席された父兄と共に卒業を祝った。

この度、無事に卒業することができたのも先生方の温かい御指導のおかげだと考えております。

私は三〇年近く勤めた製薬会社を辞め、入学いたしました。理学療法士(P.T)を目指したきっかけは、病院訪問の仕事で、P.Tと出会い、話をしているうちに興味を持ったことです。また、中高年受難の時代に中高年でもこれくらいのことではいけないということを示されたこともあります。

この四月からは老健施設で働きながら本学の大学院に進学し、介護予防について研究したいと考えています。筋トレ等の訓練面だけでなく、介護予防が効率的に達成できる方法を心理面や制度面からも研究していきます。

職として教育を行ってきました。しかし、技術革新の激しい現代社会では、医療福祉に関する学問や技術といえども、五年後には半分が古いものになるといわれています。その意味でも生涯にわたって勉強を続け、専門職としての力量を高めていこうという意欲を持ち続けてください。

またこの仕事は、個人の利益の追求ではなく社会に対する奉仕が基本です。自己規律と強い倫理観が求められています。自らの努力なくして人生の果実を期待してはならないことを知っている人が私の願う専門職の理想の姿です。

皆さんはここで学んだ知識と技術、そして大学建学の理想である「共に生きる社会」を築くという精神を持って、医療福祉の分野で知的にも精神的にもたくましく生き抜いてください。また日本国内はもとより、海外も含め、人々の健康と福祉の向上のために尽くしてください。

医療や福祉の現場は常に病に苦しむ人、不自由な体で耐える人、そして死に直面する人と接する場であり、死を考えた、病気を通して健康の喜びを、死を考えたことよつて命の尊さを思う厳しい場でもあります。患者さんたちは、皆さんの姿や行動の中に明るさと生きる喜びを求めています。皆さんの目をいつも相手と同じ高さにするという気持ちを忘れないでください。また、皆さん自身心も体も健康であることに心がけてください。

卒業生の中には、学部で六名、修士課程で八名の留学生も含まれています。多くは家族と離れ、言葉や習慣の違いで日本でもさまざまな困難を克服して、立派に所期の目的を果たされました。私は皆さん

平成十六年度大学院修了生

- ・保健医療学専攻博士前期課程 七六名
- ・医療福祉経営専攻修士課程 二二名
- ・保健医療学専攻博士後期課程 五名

保健医療学専攻博士後期課程修了者

田平 隆行(作業療法学分野)
論文:軽度痴呆症の注意配分機能に関する生理心理学的評価と作業療法の効果研究

昇寛(理学療法学分野)

論文:人工膝関節全置換術施行患者の効果的運動装置の作成と効果判定

福井 トシ子(看護学分野)

論文:セルフマネージングチーム制の創出と効果 個人とチームの成長

石附 智奈美(作業療法学分野)

論文:よりよいコミュニケーション体験の提供をめざす自閉症児作業療法の熟練者と初心者における行動の相違

杉山 直樹(放射線・情報科学分野)

論文:仮想Burgerフロントムによる画質評価法の開発

理学療法学科 大川 黎

この度、無事に卒業することができたのも先生方の温かい御指導のおかげだと考えております。

私は三〇年近く勤めた製薬会社を辞め、入学いたしました。理学療法士(P.T)を目指したきっかけは、病院訪問の仕事で、P.Tと出会い、話をしているうちに興味を持ったことです。また、中高年受難の時代に中高年でもこれくらいのことではいけないということを示されたこともあります。

この四月からは老健施設で働きながら本学の大学院に進学し、介護予防について研究したいと考えています。筋トレ等の訓練面だけでなく、介護予防が効率的に達成できる方法を心理面や制度面からも研究していきます。

学生生活の中で一番の思い出は、ラグビーの練習中に肩鎖関節を脱臼したこと。若い時からやっていたので自信はありましたが、この時はやはり自分の年齢を思い知りました。また、往復四時間の電車を書齋とし、勉強したことも良い思い出です。しかし、なんと言ってもうれしかったことは、長男が私と同じ道を選んでくれたことです。これからも妻に感謝しつつ温かいP.Tになるように努力していきます。

大学院医療福祉経営専攻 宮内宰治



東京サテライトキャンパスに通う宮内さん。久しぶりの本校への来校という

本学入学の動機は、四十数年間続けてきた会社勤めをやめた時、全てがあまりにも会社本位であったため、生活に大きな空白ができてしまい、何かに挑戦したくなったことです。そのため一つは社会への奉仕としてNPOで障害者支援活動を行っていました。二つ目は知的充足感を得られるような対象として福祉活動に関連して本学の大学院修士課程を選びました。

大学院では先生方から知的刺激を、若いクラスメートからはエネルギーを貰いました。

二年間の大学院の課程で得たものは、単なる知識や方法論ではなく、自律的に考えること、対象をどのように捉えるか探求し、それを結果としてどのように表現するかの二点です。

修士の学位の取得は目標の一つでありましたが、目的ではありません。人生のブランクの一つの通過点に過ぎませんが、私にとつて、この二年間はキャンパスへ来ること自体が楽しく非常に充実したものでした。まさに嵌まってしまったということでしょうか。来年度も本学の研究生として新たな研究テーマを探して取り組んでいきたいと考えております。

に心からの敬意とお祝いを申し上げます。皆さんはまた、それぞれの祖国において指導的な役割を担う人材です。祖国の繁栄、人々の健康と福祉の向上に尽くされ、さらに祖国と日本を結ぶ友好の架け橋になつていただくことを期待します。

出席された父兄に対しては、お祝いと共に皆さんの物心両面にわたるご支援がなければ、今日の日はなかつたことを思う時、大学として改めて感謝を申し上げます。皆様のご子弟が本学を卒業したことを誇りに思っていただけけるよう教員一同この大学をさらに発展させるために努力いたします。

平成十六年度卒業生

保健学部	五二六名
看護学部	一一八名
理学療法学科	一〇一名
作業療法学科	九七名
言語聴覚学科	八七名
放射線・情報科学科	一一三名
医療福祉学部	一三四名
医療経営管理学科	一一七名
医療福祉学科	一一七名

学長賞受賞者(学業成績優秀者)

看護学部	菊池千恵子
理学療法学科	島田 周輔
作業療法学科	若上さやか
言語聴覚学科	金井 香
放射線・情報科学科	菅原 崇
医療経営管理学科	堀木恵美子
医療福祉学科	大角 千佳

Close-Up

IUHW奨学生卒業 チョーライ病院の看護師 グエン・ティ・ヒエンさん(看護学科)

グエン・ティ・ヒエンさんはベトナムの看護専門学校を卒業後、チョーライ病院の脳神経外科で7年間、看護師として働いていた。チョーライ病院は、本学が毎年行う海外研修活動先である。ヒエンさんは学校卒業後、母校で日本語の先生に出会ったのをきっかけに日本語が好きになり、夜勤の日を除く週3回、日本語学校に通うようになった。そんな折、チョーライ病院で本学の学生が研修する姿に接し、ヒエンさんも本学に留学して日本語や看護学を学びたいと思い、IUHW奨学生に応募した。

本学では、「先生方が、わかるまで熱心に教えてくれたし、友達もわからないところを見てくれたので勉強しやすかった」と、温かい環境を喜んで、「母国の病院に戻ったら、日本で習ったことを生かしたい。日本の平均寿命が長いのは、予防医学が進んでいるからだと思つ」と、ヒエンさんは本学に来てから上達した日本語で語った。ベトナムには保健師制度がないので、日本で学んだことを取り入れていきたい」と意欲を示し、将来の夢は、「貧しい人も、そつでない人も、平等に幸せになるように皆の健康を守り、保健師としての活動を進めていくこと」と言い、目を輝かせた。「日本語の勉強もずっと続けよう」。



卒業式の後、謝恩会に出席したグエン・ティ・ヒエンさん(右)と親友の緑川瑛美子さん

臨床医学研究センターに 新たに9施設が指定される

リハビリテーション学部の開設に伴い九州地区の臨床医学研究センターとして既に高木病院、柳川リハビリテーション病院が指定されていたが新たにみずま高邦会病院、介護老人保健施設水郷苑、有明総合ケアセンター、重症心身障害児者施設・柳川療育センター、福岡中央病院、有明クリニックの6施設が指定され、同地区での臨床医学研究センターは合計8施設となった。また、二月に国際医療福祉大学・高邦会グループに参画した財化学療法研究会、化学療法研究所附属病院千葉県も指定された。

これにより臨床医学研究センターは、栃木・東京九州地区合計で16施設となり、臨床実習を重視し、医療福祉分野での科学技術の高度化や専門化に対応できる医療福祉専門職の育成を、目指す本学の教育環境がさらに拡充した。

- 臨床医学研究センター（合計16）
- 栃木地区：国際医療福祉病院、国際医療福祉リハビリテーションセンター、おおたわら総合在宅ケアセンター、介護老人保健施設マロエ工苑、特別養護老人ホーム栃の実荘にしなすの総合在宅ケアセンター
 - 東京地区：山王病院、化学療法研究所附属病院（千葉県）
 - 九州地区：高木病院、柳川リハビリテーション病院、みずま高邦会病院、介護老人保健施設水郷苑、有明総合ケアセンター、柳川療育センター、福岡中央病院、有明クリニック
 - 大学附属臨床実習施設（合計3）
 - 栃木地区：国際医療福祉大学クリニック
 - 東京地区：国際医療福祉大学附属三田病院
 - 熱海地区：国際医療福祉大学附属熱海病院



医療法人社団高邦会
みずま高邦会病院
(福岡県三潴郡大木町)

TEL : 0944-87-8880
FAX : 0944-87-1711
http://www.kouhoukai.org/mizuma/

加齢により身体機能が低下した方の治療と機能回復訓練を専門とする病院である。一方で自宅で療養されている方とその家族に対する在宅支援の機能も備えた総合施設。

院内は木製家具をふんだんに使用し、柔らかい光を採りこむため障子を採用、暖かくぬくもりにあふれた雰囲気を出している。また、身体の症状に合わせて、入浴できるような一般浴槽・リフト浴槽（車椅子で入浴可）、バリア浴槽（寝たままの姿勢で入浴可）の3タイプの浴槽を設置している。臨床研修指定病院である国際医療福祉病院・国際医療福祉大学附属熱海病院・高木病院の臨床研修協力

高木病院 (福岡県大川市)



TEL : 0944-87-0001
FAX : 0944-87-9310
http://www.kouhoukai.org/takagi/

明治四三年の開院以来、九〇年を超える歴史がある。公的病院がない大川市において市民病院的な役割を果たすとともに、福岡県南部地域の二四時間救急医療機関としての機能を担っており、プライマリ・ケアから高度先進医療、予防医学まで一貫した医療体制を確立し、質の高い医療を提供している。

昨年には、新館（第二本館）がオープン。小児医療、救急医療、循環器科などの急性期医療を担当する医師等のスタッフの充実に加え、心臓血管（冠動脈）の撮影が可能で一六列リニアスライムCTや、国内最高水準である一五マラフMRIなど最新医療機器を導入し、高次医療にも積極的に取り組んでいる。さらに臨床研修指定病院として若手医師の育成にも力を注いでいる。

不妊センターには、九州地域はもとより全国各地から治療にいらしていただいており、国内ではトップクラスの治療実績を誇っている。

柳川リハビリテーション 病院 福岡県柳川市



TEL : 0944-72-0001
FAX : 0944-72-1127
http://www.kouhoukai.org/yanagawa/

施設としての役割も果たしており、老人福祉を担うマンパワー育成機関として、人材育成にも力を注いでいる。

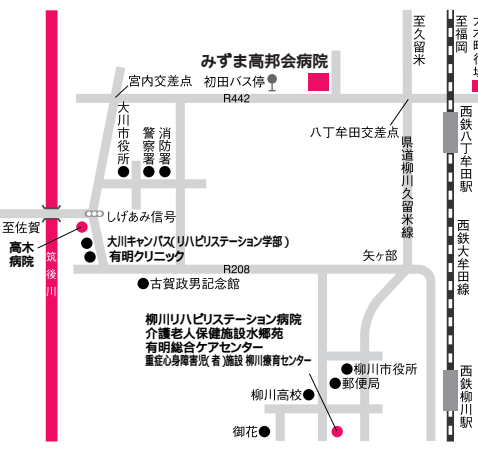
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の総

福岡中央病院 (福岡県福岡市)



TEL : 092-741-1041
FAX : 092-741-1499
http://www.kouhoukai.org/fukuoka-c/

開院以来、四列マルチCTや一〇テスラMRIなど医療機器を刷新するとともに、急性期・亜急性期のリハビリテーションの充実をはかり、質の高い機能回復訓練を提供している。また、大都会福岡市の中でも特に昼間人口の多い西鉄福岡駅、地下鉄天神駅から徒歩七分の交通至便な場所に位置していることから、人間ドックや企業健診など予防医学に



介護老人保健施設 水郷苑 福岡県柳川市



TEL : 0944-74-4001
FAX : 0944-74-4820
http://www.kouhoukai.org/suigouen/

柳川リハビリテーション病院に隣接する介護老人保健施設。天然温泉大浴場をはじめ、充実した設備を有し、経験豊かなスタッフが入所者それぞれに適切なケアプランに基づき、比類のないリハビリテーションを実施。在宅復帰を目標として自立した生活が営めるよう支援している。

また、高木病院、柳川リハビリテーション

有明クリニック (福岡県大川市)



TEL : 0944-89-5656
FAX : 0944-87-0028
http://www.kouhoukai.org/cshweb/

高木病院に隣接した、在宅支援を専門としたクリニック。入居型から在宅支援サービスまで総合的な福祉サービスを提供しているケアサポートハウス大川に併設している。

臨床研修指定病院である国際医療福祉病院・国際医療福祉大学附属熱海病院・高木病院の臨床研修協力施設としての役割も果たしている。



有明総合ケアセンター (福岡県柳川市)



TEL : 0944-75-6500
FAX : 0944-75-1405
http://www.kouhoukai.org/ariakehomepage/

柳川リハビリテーション病院に隣接する複合型の在宅サービス施設。

居宅介護支援事業をはじめ、訪問看護・訪問リハビリテーション、通所介護サービスを行っている。また、認知症専用の併設型通所介護施設も設置している。

社会福祉法人高邦福祉会 重症心身障害児者施設・柳川 療育センター(福岡県柳川市)



TEL : 0944-73-0039
FAX : 0944-73-0059
http://www.kouhoukai.org/lyrc/

財団法人化学療法研究会 化学療法研究所附属病院 (千葉県市川市)



TEL : 047-375-1111
FAX : 047-373-4921
http://www.kaken-hp.or.jp/contents3.htm

昭和十四年（一九三九年）、結核に対する化学療法の研究を目的に設立された化学療法研究所の附属病院として開設。当時、結核は国民病と恐れられ、年間死亡者数も十数万人に及んでいたが、大気安静療法と称し、空気の澄んだ静かな地方に隔離する以外に方法はなかった。

化学療法研究所は、そのような時代を背景に設立され、目的の重要性から三井財閥の社会奉仕を担っていた三井報恩会より多大の支援があった。また、病院開設時には、宮中より明治天皇の御学問所として使用された建物が下賜された。「恩賜館」と命名された建物は、現在も行事等で使用されている。

結核は、薬を飲めば完治する時代となったが、時代とともに疾病構造も多様化。時代の変化に合わせて、結核のみならず、地域医療にも対応している。また、今年一月、IUHWグループに参画。今後は肺がんなど呼吸器全般を診療体制の柱とするともに、がん全体の化学療法にも積極的に取り組んでいく。

普通救命救急講習会の開催

平成十七年二月七日(月)～十日(木)の四日間、放射線・情報科学科二年生の三浦則仁君ら数名の有志による準備、地元大田原消防署救急隊の方々のご協力のもと、普通救命救急講習会が開催された。

現在、世界的に米国心臓協会AHAによる「ACLSガイドライン2000」に基づく心肺停止に対する標準法が広く普及しつつある。わが国でもBasic Life Support (BLS) など、実習を通して体験習得する教育的活動が繰り返されている。今回の講習会はこのプログラムに基づいたものであり、内容は応急手当の講義やレザシアン人形を使った心肺蘇生の実習を中心に、異物の除去、大出血時の止血法、患部固定法、救急患者の搬送法など多岐にわたるものであった。

学生たちは将来、放射線領域で造影剤を



レザシアン人形による心肺蘇生実習

使用したCT検査や血管造影検査、さらに Interventional Radiologyに伴うハイリスク症例の検査に従事しなければならぬ。その際、造影剤過敏症に伴う血圧低下、心肺停止などが起こった場合、その正しい知識が必要となる。今回、心肺蘇生法の実技実習を通して、その正しい知識を理解する目的としてはたいへん有益であった。講習会終了後は受講者全員(放射線・情報科学科一年生一九名)に普通救命救急の修了証が渡された。

大学の講義や実習とは異なり、救急救命士、レスキュー隊員、消防団員など現場で活躍されている方々の生の声も聞くことができ、たいへん有意義な講習会であった。(放射線・情報科学科助教 新井正一)

平成十六年度 大学院博士 学位論文発表会

本発表会は昨年度に続き、第二回目となる。今回、発表まで漕ぎ着けたのは五名であった。博士課程の三年生の人数は二十名であるので、かなりの狭き門と言つことになる。また参加者は、発表者、教員、その他大学院生など、およそ六〇名であった。発表会は大学院専攻主任の鎌倉矩子教授による開会、および開原成允大学院長の挨拶により開始された。一発表あたり、三〇分が当てられ、発表の後に質疑応答が行われた。質疑は、かなり白熱したもので、厳しい質問も数多く出された。開原大学院長の話にもあったが、昨年に増して研究の質は



発表後の質疑応答は、厳しい質問も数多く出された

高くなっているように感じた。また、研究題目を簡単に見ると、看護学分野のマネージメントに関するもの、人工関節施行患者に対する効果判定に関するもの、痴呆症(認知症)に対する作業療法介入に関するもの、作業療法士の熟練度に関するもの、X線画像などへの利用を目的とした仮想ファントムの開発に関するもの、と文字通り学際を目指す国際医療福祉大学大学院の特徴が出ていると感じた。

(大学院教授 田中繁)

ニッセイ同和損害保険(株) 代表取締役岡崎会長と 奨学生の懇親会を開催

一月十六日(火)、本学レストラン「メイフェア」において、ニッセイ同和損害保険



岡崎会長(写真最前列中央)を囲んで

どつともありがたございました」と感謝の言葉が続いた。

また、中には「在学中は奨学金でお世話になりましたが、卒業後はまた自動車保険でニッセイ同和さんにお世話になります。よろしくお願いします。」「ユーモアに富んだ近況報告もあり、二時間の懇親会は終始和やかな雰囲気であった。

最後に岡崎会長を囲んで記念撮影を行い、会長との別れを惜しんだ。

(学生課長 宮下真男)

TOPICS 大田原本校に薬学部棟と 那須アスリーナ、福岡県大川市に リハビリテーション学部校舎が完成

本学大田原本校構内に薬学部棟(N棟)と那須アスリーナ、福岡県大川市にリハビリテーション学部校舎がそれぞれ完成した。薬学部棟は、図書館の並びに位置し、地上六階建ての白亜の建物。模擬薬局や調剤室・製剤室のほか、最新の臨床実習施設を棟内に設置している。また、那須アスリーナは、地上二階建て。既存の体育館と一階部分がつながっており、体育館と合わせ建物全体で「那須アスリーナ」となった。一階は武道場、二階がレストラン、屋上は弓道場となっており、地域の方々への開放も予定している。

福岡県大川キャンパスのリハビリテーション学部校舎は、表通りに面した地上三階建ての図書館・講義棟と、地上四階建ての講義・実習棟からなり、一棟ともブラウンを基調とした色合いの校舎である。吹き抜けの天井が広々とした印象を与える図書館



薬学部棟(N棟) 那須アスリーナ リハビリテーション学部図書館・講義棟 リハビリテーション学部講義・実習棟

TOPICS

医療経営管理学科の学生が大田原市社会福祉協議会から 講師招聘、講演を行う

医療経営管理学科四年(執筆当時)佐藤保広さん(福永ゼミナール)が大田原市社会福祉協議会主催の福祉研修に講師として招聘され、平成十七年二月二十四日、「トイレの現状と展望」の論題で大田原市福祉センター研修室にて講演を行った。研修生(聴衆)は市役所の福祉関係者と地域の民生委員で約七〇名と盛況であった。

佐藤さんは、卒業論文「トイレのバリアフリー・アメニティについての一考察」にて、大田原・西那須野の街の障害者用トイレの実態を調査し、車椅子使用の方にとって理想のトイレとは何かを考察・研究した。地元の実地調査であり内容も優れていることからゼミ指導教員が市役所に卒論を提出したところ、大学に市長名で社会福祉協議会研修講師の招聘依頼となった。

講演では、卒業論文の一部が約三〇分間にわたって発表された。大田原・西那須野における街の障害者用トイレ十数ヶ所の写真がパワーポイントにて映写された。病院、図書館、家電量販店、コンビニ、スーパーなどのトイレの写真は整理区分され、各々の比較を通じて「車椅子使用の障害者にとって使いやすいトイレとはどのようなものか」を研修生と共に考察していった。健常者の目の高さではなく、車椅子着座時での目の高さに写真のレンズを合わせ、文字通り障害者の視点からトイレを考察している点も会場の

株式会社代表取締役岡崎真雄会長をお招きし、谷学長をはじめ、各学科長とニッセイ同和奨学生一九名が参加し、懇親会が開催された。

今年で七年目になるこの奨学金制度は、同社の創立一〇〇年記念事業として、保健・医療・福祉の専門職の育成を目指す本学の趣旨に賛同して設立されたもので、毎年成績優秀者の中から選ばれ、現在二六名が奨学金の支給を受けている。

谷学長の歓迎の挨拶に続き、岡崎会長から「大学で十分な知識を身につけるとともに、人とのつながりを大切に、社会に出てからは命の大切さや、人の痛みを理解し、温かい気持ちを持って人に接することができ、医療人になっていただきたい」とのお言葉をいただいた。

各奨学生からは、学校生活などの近況について報告があり、今年卒業を迎える四年生からは、「奨学金のおかげでアルバイトをすることなく、学業に専念することができた。そのため、先頃行われた国家試験も自己採点ではあるが、満足する点数が取れた。岡崎会長様には大変お世話になりました。

関心を引いた。

研修生の福祉関係や民生委員の方々は大元の身近な場所の問題だけにとっても真剣に講演を聞いておられ、講演後は「現在の建築基準法」、「公的補助金制度」などの具体的な質問が市役所に対して活発になされた。現状の街のトイレに満足してしまわず、トイレのあり方は一人ひとりが意識して取り組むべき課題であるとの理解を得ることができ、講演はその目的を達した。

佐藤さんは、大学生活四年間、色々な方々に支援をいただいた大田原の街に少しはあるが自分の卒業論文を通して恩返しができ、卒業論文を発表するという貴重な経験を通して、自分の考えを相手にうまく伝えることの難しさを感じ、とても勉強になった」と感想を述べている。

医療福祉の世界に巣立っていく本学医療経営管理学科の学生に対して、大田原市の福祉行政を担ってこられた大ベテランの方々を前に卒業論文の発表の機会をご配慮いただいた大田原市長、同市企画部、大田原市社会福祉協議会の皆様に厚く感謝、御礼申し上げます。

(医療経営管理学科助教 福永肇)



地元の身近な場所の問題とあって 研修生も真剣に講演を聞いていた

TOPICS

大学院修士課程に 新たに二つの分野を開設

本学大学院では、二〇〇五年四月、修士課程に新たに二つの分野を開設した。保健医療学専攻の「生殖補助医療胚培養分野」(エンブリオロジスト養成)、医療福祉経営専攻の「医療福祉ジャーナリズム分野」。生殖補助医療胚培養分野は、不妊治療分野において日本で有数の実績を持つ山王病院(本学臨床医学研究センター)などと協力し、胚培養士を養成する大学の正式のコースである。必要な単位を取得し、この課程を修了した場合には、日本哺乳動物卵子学会認定の生殖補助医療胚培養士の受験資格が得られる。

また、医療福祉ジャーナリズム分野は最近の医療・福祉分野への関心の高まりに呼応して、医療福祉ジャーナリズムの知識・技術を教えるコースを開設した。本学グループでは、CSデジタル衛星放送スカイパーフェクTV!において、わが国唯一の医療福祉専門チャンネルである「医療福祉チャンネル774」を運営しており、本学大学院では、既に多くのジャーナリストが、教授または客員教授として教鞭を執っている。さらに各地のサテライトキャンパスにおいても、医療福祉関連の基礎的な講義が広い分野にわたって日夜行われており、本コースは、こうした独自の教育資源を結集することによって運営している。

(教育企画室室長代理 岡田芳博)

TOPICS

介護予防モデル事業(筋トレ)等 における大田原市との 共同研究事業報告

本学では平成十六年十一月から平成十七年一月までの三ヶ月間、火曜日と金曜日の週二回、大田原市の協力のもと、「要支援者および軽度要介護者の介護サービス」の計画および標準化に関する研究(平成十六年度厚生労働科学研究・主任研究者杉原素子教授)の一環として、筋力向上トレーニング教室を開催した。これは、同時に平成十八年度の介護保険の見直しに向け、大田原市が厚生労働省からの指定を受けて実施する介護予防モデル事業への協力という位置づけにもなっている。

この研究事業は、「いわゆる軽度層」の高齢者の機能低下を防ぐための各種プログラム開発である。研究は、要支援者一七七人、要介護者二九六人、合計四七三人(昨年八月一日現在)の市内在住の軽度層の方を対象としたスクリーニングから始まった。スクリーニングの作業には、市の保健師や行政担当者、大学の各専門職が関わり、共通の視点をもちながら対象者を類別化した。類別化には介護保険の一次判定資料、医学的意見書などを参考に、筋骨格系・関節の疾患、高齢による廃用性変化、脳血管疾患の各群に分け、高血圧などのエントリー除外条件を加え、合計九七人



筋トレ教室の学生と対象者

TOPICS

本学大学院主催「乃木坂スクール」 平成十七年度 前期講座開講

「乃木坂スクール」は、医療機関や企業で働く医療職を対象とした一般公開の生涯学習コースである。平成十七年度前期は、月曜日から土曜日まで全一〇講座が開講している。その内容は非常にバラエティに富んでおり、医療情報やケアマネジメント、臨床試験、医療ジャーナリズムに関する講座のほか、今回から「精神療法セミナー」と、患者の声を医療に生かす」が新たに開講している。「精神療法セミナー」は、医師や臨床心理士を対象とした様々な精神療法を概括的に学べるコースである。「患者の声を医療に生かす」は、各回3〜4人の第一線で活躍する患者団体の代表を講師に迎え、患者の声を医療の改善へと生かす方法を学ぶことを目的とした非常にユニークなコースである。会場は東京サテライトキャンパスと、コース



乃木坂スクール
(東京サテライトキャンパス)

【申し込み・問合せ先】
東京事務所 乃木坂スクール事務局
TEL: 〇三三四七五 七七〇〇
FAX: 〇三三四七五 七七〇九
e-mail: nogizaka@uhw.ac.jp
本学大学院から申し込み用紙をダウンロードし、メール又はFAXにて申し込みください。

を筋力向上トレーニングの対象者として選定した。次に、ケアマネジャー、市担当者、大学担当者の三者で構成した家庭訪問班による聞き取り調査を行い教室への参加の可否を確認した。各家庭を訪問中、希望者が想定人数を超えたため、三十名を越えた時点で訪問を中止し、モデル事業を開始した。

教室は、大学院棟五階の大変眺めのよい部屋で行い対象者に好評であった。また、運動プログラムは、「にしなすの総合在宅ケアセンター」に勤務し、本学助手・二期生でもある下井俊典・理学療法士が作成、セラバンドや軽負荷の運動を組み合わせて参加者に無理がないように個人の体力に合わせて計画、PT・OT・ORT学生も加わり教員が指導を行った。

今回の教室から得られた結果の一例として、体力面では歩行速度や筋力、柔軟性に向上が認められ、また精神面では「身体を動かすことや学生に会えることで元気がでてきた」といった活力や心の健康状態の向上、「料理ができるようになった」など社会生活機能の向上が認められた。

今後はこれらの結果を分析し、市内の中学校区ごとに一ヶ所ある「ほほえみセンター」一三ヶ所と同様のプログラムを実施していくことを検討している。なお、大学での本研究事業は三ヶ年計画であり、今回の「筋トレ」だけではなく、高齢者の生活維持に必要な活動を展開していくことを検討している。このような取組みは、国の介護保険法改正の基礎資料として活用されていくと考えている。

(作業療法学科助教 谷口敬道)

TOPICS

リハビリテーション学部 初めての合格発表

二月十日、リハビリテーション学部初の合格発表が行われた。当日は番号をいち早く確認したいという受験生や、保護者が定刻よりも早く集まり掲示を待った。掲示されるや否や番号を確認。早速携帯から連絡する人、静かに立ち去る人など悲喜こももとの光景が見られた。

笑顔の受験生の一人は「医療関係の専門学校に行っているのですが、どうしてもPTになる夢がきらめられずに、受験しました。合格できてうれしいです!」と喜びいっぱいに語ってくれた。

一期生の熱い期待に応えられよう頑張るぞ!そんな気持ちになるような合格発表日だった。

(リハビリテーション学部事務部長 原田千春)

TOPICS

二〇〇五年度入試日程 全て終了

さる三月一日から五日にかけて実施された一般入試後期日程も、教職員をはじめ関係各位のご協力の下、大きなトラブルなく無事に合格発表の日を迎えることができた。今年度の入試全体を振り返ると、「薬学部」「リハビリテーション学部」でも第一期生を選抜する初めての入試が行われ、本学全体での志願者数はトータル六、六七〇名、対昨年比一、五七一名の増加となった。特に「薬学部」では、一五〇名の募集定員に対し

二倍を超える数の志願者が集まるなど、北関東初の薬学部の誕生に大きな期待が寄せられていることを伺わせる結果となった。また、既存の保健学部、医療福祉学部の中では、作業療法学科が昨年度より一〇〇名以上も志願者を増やして大いに健闘をみせた。一年後となる二〇〇七年度、日本の大学入学定員の総数と志願者数は計算上ほぼ同数となり、いわゆる「大学全入時代」になるといわれている。大学の淘汰は劇的に進行し、一昔前の大学間のポジションニングはその様相をすっかり変えてしまっていることだろう。今年ようやく一〇周年を迎えた本学であるが、次の一〇年を経た後も、さらに確固とした独自の存在感を輝かせ、医療福祉の道を志す多くの受験生を集め続けるためにはどうすべきかを、今一度考えるべき節目でもある。

ともあれ、二〇〇五年度入試はこれですべての日程が終了した。いよいよキャンパスでは新入生を迎える準備が本格的に始まる。

(入試センター企画課長 小峰辰也)

2005年度入試 学部別志願者数

学部	定員	志願者数()	昨年度
保健学部	480名	3772名	(4310名)
医療福祉学部	240名	698名	(789名)
薬学部	150名	1887名	-
リハビリテーション学部	80名	313名	-
合計	950名	6670名	(5099名)

TOPICS

映画の心と眼

第4回

医療映画の表現を自問する

客員教授 諏訪 淳(すわ あつし)

抽象的なイメージや感情を具体的なものに移し変え、心情面への投影をしてゆく一連の行動が映画づくりである。

映像として表現された画面一つ一つは非常に具体化された積み重ねであるが、映画に接した時、その具体性のある映像だけを理解しているわけではない。無意識のうちに内面にある心理的要素を汲み取る行為が働いている。即ち、つくり手が的確な映像表現をしないと、誰が何をしたのかという出来事はわかってもらえないのだ。

このことは、医療・福祉・保健また介護に関するテーマを映画化する時、特に求められる課題である。

医療関連の映像によるマニュアル化については、社会的に多くの人々の手助けになる事実は確かにあり、「救いの神」ともいえる。しかし、「生と死」に直面する現実問題に対して、映像のつくり手がどこまで自身としてかわりをもち表現したかが問われなければならない。現在製作されている多くのマニュアル映像は、その点で疑義をのこしている。つくり手にとって、製作する映画と自身とはどうあるべきかの難題には心がゆさぶられる。つまり、実際に撮影し映像化する行為の段階、そして作品として完成するまで、更に完成後のかかわり方をどう自身と対峙させるのか、こうした製作の過程で行われる思考行動こそが《映像表現》の原点ともいえるのではないが。

従って、医療関連の映画は、完成させただけでは意味がない。完成後自身も映画作品と一緒に運動体となり主張し、対応することが重要なのだと考える。

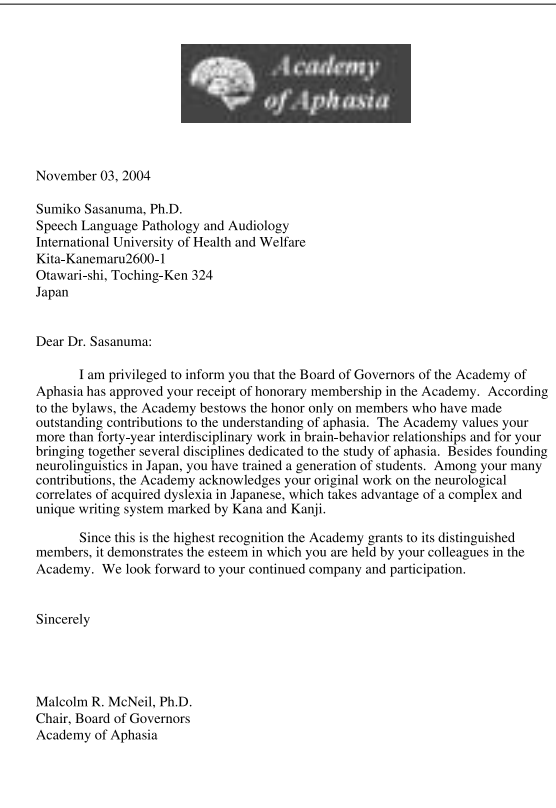
《表現する行為》の基本は、自身への願望と批判のなかでかかわる心情を的確に持つことである。



《死ぬ時は自宅で...》と願う介護老人、「病院はさくらだ」の一言がそれを物語る。老人ケアの問題を提起する作品。
1991年製作・上映時間2時間17分。
毎日映画コンクール記録文化映画賞・日本映画ペンクラブ賞・キネマ旬報賞他。

TOPICS 笹沼澄子先生がAcademy of Aphasiaの名誉会員に

本学名誉教授・客員教授の笹沼澄子先生が、Academy of Aphasiaより、名誉会員の称号を授けられました。Academy of Aphasiaは一九六二年に最初の学会が開催された学術団体で、失語症の研究に携わる様々な学問領域の世界のトップクラスの専門家が会員となつています。この学会の正会員の条件がきわめて厳しいため現在の正会員数は約二五〇名と少数ですが、笹沼先生は一九七〇年代からこの会のアクティブなメンバーとして、特別講演やシンポジウムなどで活躍してこられました。



紙が笹沼先生宛てに届きました。この手紙は、Academy of Aphasiaの役員会が笹沼先生を名誉会員として推薦したこと、その主な理由は先生の四〇年以上に渡る失語症研究特に、日本人の失語症者を対象とした漢字・仮名障害についての独自の研究の成果を高く評価するものであること、さらには、この称号は、Academy of Aphasiaが授与する最高の栄誉であること、などを伝えています。日本人の失語症研究者としての初めての受賞であり、本学のみならず我が国の失語症研究者や臨床家にとっても大ニュースです。笹沼澄子先生、誠におめでとございます。心よりお喜び申し上げます。(常務理事 伊藤元信)

国際医療福祉大学附属熱海病院

NEWS 第六回公開講座 開催される

平成十七年二月六日(日)熱海市観光会館にて六回目の公開講座が開催されました。テーマは前回に引き続き、「加齢と疾患(その二)」で以下五名の当院の講師が講演しました。

- 1. イントロ 介護予防と未病
2. 都島基夫教授(内科・循環器科)
3. 加齢黄斑変性と老人性白内障
4. 陶山秀夫助教(眼科)
5. めまいの正体
6. 神崎 仁教授(耳鼻咽喉科・附属熱海病院院長)
7. 豊かな人生は食べ物パワーから
8. 佐藤恵理子管理栄養士
9. 薬の飲み方、使い方Q&A
10. 鈴木高弘主任薬剤師

当日は、約三五〇名の市民の皆様が集まりました。また同時に開催される当院看護部主催のメディカルチェックにも多数の市民の皆様が参加されました。ご参加いただいた市民の皆様ありがとうございました。ご開催してまいります。次回は五月十五日(日)の開催を予定。詳細は決まり次第、この誌面上でもご案内いたします。

第二回褥瘡講演会 開催される
平成十七年二月二十五日(金)当院の

褥瘡対策委員会の主催による第三回褥瘡講演会が開催されました。講演会ではまず当院皮膚科の佐々木哲雄教授と花田美穂講師から当院の褥瘡対策に関する報告が行われ、次に横浜市立大学医学部附属病院看護部から山田千寿様と井口美奈様を特別講師としてお招きし、「褥瘡へのチームアプローチ WOC看護師の役割」と題して講演頂きました。WOCとはWOUND(創傷ケア)・CONTINENCE(失禁ケア)の頭文字を指し、総合的な褥瘡対策を意味しているとのこと、参加した当院職員は先進の褥瘡対策について有益な情報が聞けるとあって熱心に耳を傾けていました。

第九回DMボートの集い 外食講習会 開催される

平成十七年三月八日(火)小田原市の「なだ万茶寮 小田原店」において、当院の糖尿病患者様の集いである熱海DMボートの外食講習会が開催されました。当日は「なだ万茶寮 小田原店」の調理長である岩間幸次氏の調理教室と著名な料理店である「なだ万茶寮」の昼膳を堪能いたしました。メニューは特別に調理していただいた低カロリー膳で日本料理の技の光る品々がテーブルを飾りました。

個人情報保護法講習会 開催される
平成十七年三月八日(火)個人情報保護法講習会が開催されました。講師は本学大学院院長の開原先生にお願いし、個

教員紹介

和田 秀樹 (わた ひでき)
現在所属・職位
生年月日
最終学歴
専門分野
前職
主要著書・論文
担当科目
今後の研究課題

大熊 由紀子 (おおくま ゆきこ)
大学院教授 / 東京大学教養学部 / 医療・福祉政策の国際比較、世直しの人間科学 / 朝日新聞 論説委員、大阪大学大学院教授 / 「寝たきり老人」のいる国はない国、福祉が変わる医療が変わる(ぶどう社)、介護保険物語、運しき挑戦者 (http://www.yuki-english.com) / 医療福祉倫理、医療福祉ジャーナリズム / 医療福祉ジャーナリズムの歴史と役割、当事者組織と行政のパートナーシップ

川内 基裕 (かわうち もとひろ)
国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授 / 国際医療福祉大学附属熱海病院院長 / 1954年1月6日 / 東京大学医学部卒 / 心臓血管外科 / 水泳医学 / JRA東京競合病院心臓血管外科部長 / 「EBMに基づく急性心筋梗塞診療ガイドライン(厚生科学政策評価)研究」 / 「Gene therapy for attenuating cardiac arrhythmia using ex vivo EGF domain primates Cricetus 87: 1063-1068, 2000」 / 井原市立総合運動場の整備 / 糖尿病性代謝異常と最大動脈採取 / 日本胸部外科学会誌 38: 106-110, 1990 / 「水泳と心臓血管外科」 / (日本水泳連盟誌 共著) / 南江 1987 / 「心臓血管外科」 / 心臓血管外科の低侵襲化による診療水準の向上

橋本 雅章 (はしもと まさあき)
国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授 / 国際医療福祉大学附属熱海病院院長 / 1955年9月14日 / 徳島大学医学部卒 / 脳神経外科一般 / 自治医科大学脳神経外科講師 / 医局長 / 脳腫瘍病理、脳腫瘍の免疫治療、定位放射線治療などに関する論文多数 / 脳神経外科 / 急性脳卒中治療の確立と手術支援システムを用いた侵襲手術の工夫

長原 光 (ながはら ひかる)
国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授 / 山王病院消化器内科 / 1955年9月9日 / 北海道大学医学部卒 / 肝臓病 / 消化器病 / 病変分子生物学 / 東京女子医科大学消化器内科講師 / Nagahara H. et al. Transduction of full-length TAT fusion proteins into mammalian cells: TAT-p27^{ras} induces cell migration. Nat Med. Dec 4(12): 1449-52, 1998. Nagahara H. et al. Trans-forming growth factor beta targeted inactivation of cyclin E: cyclin-dependent kinase 2 (Cdk2) complexes by inhibition of Cdk2 activating kinase activity. 肝臓病の成立機序の解明と予防的治療の確立

個人情報保護法について医療従事者に必要な情報を分かりやすく説明していただきました。当日は二〇〇名の職員が参加し、開原先生の講演の後も活発な質疑応答が行われ、たいへん充実した講演会となりました。当院では個人情報保護法の施行に伴い、院内に個人情報保護に関する委員会を立ち上げ個人情報保護に関する様々な対応を行ってまいります。

- 1 第1・3・5金曜日の午前診療致します。
2 皮膚科午後診療は、原則予約制です。
3 乳児健診は金曜日の午後2時～午後3時30分、予防接種は火曜日の午後2時～午後3時30分に行なっています。(予約制)土曜日の午前1診は肝臓・消化器外来となります。
4 耳鼻咽喉科外来の月曜日午後は補聴器外来、木曜日午後はめまい・難聴外来、金曜日午後はめまい外来で予約制です。
5 婦人科の水曜日と木曜日の午後は原則予約制です。

外来診療担当医師一覧表

Table with columns for Day (曜日), Time (時間), and Doctor (医師). Rows include Internal Medicine (内科), Respiratory (呼吸器科), Surgery (外科), Neurology (脳神経外科), Orthopedics (整形外科), Urology (泌尿器科), Ophthalmology (眼科), Gynecology (産婦人科), Dermatology (皮膚科), Pediatrics (小児科), Otorhinolaryngology (耳鼻咽喉科), Radiation Oncology (放射線科), and Rehabilitation (リハビリテーション科).

開設五周年を迎えて
国際医療福祉リハビリテーションセンター長
杉原 素子

重症心身障害児施設「なす療育園（定員五〇名）」、身体障害者療護施設「那須療護園（定員五二名）」、身体障害者アイサビセンター「那須アイセンター（定員一五名）」を併せ持つ国際医療福祉リハビリテーションセンターは、今年開設五周年を迎えます。入所施設は現在ほぼ満床となっており、また、身体障害者の自立や社会参加の促進と、在宅生活の支援を目指し、さまざまなサービスを提供している「那須アイセンター」の利用者も増加の状況にあります。

重症心身障害児施設機能の一環として外来部門も設置しており、主に、栃木県北部地域に住む障害を持った子どもや大人の方々が医療相談や医療ケア、障害児・者に対する歯科診療、リハビリテーション医療を求めて来所しています。特に「なす療育園」と「那須療護園」のショートステイサービスは、この地域で生活している障害児・者やその家族にとって役立つサービスとして大いに利用されています。

また、「なす療育園」に入所している重度の障害を持つ子どもたちには、栃木県立那須養護学校教員による施設内訪問学級が開かれ、子どもたちへの関わりを通して、教員と職員との相互交流も活発に行われています。加えてボランティアセンターが施設

内に置かれ、学生や近隣住民によるボランティア活動も施設内外で活発に行われるようになりました。

当センターのこれらさまざまなサービスは年を重ねるにより充実を増し、今や栃木県北部地域における障害児・者の相談・ケアの中心的施設として重要な位置を占めるようになってきました。この過程で、当センターは障害児・者施策において利用者自身がサービスを選択し決定する利用者本位の契約制度でもある支援費制度へ平成一五年度に移行。また、一年後の見直し等めまぐるしい動きを体験しました。一方で、初代国際医療福祉リハビリテーションセンター長・初山泰弘先生のご逝去という悲しい出来事にも遭遇しました。

平成一六年一〇月、今後の障害者施策として、改革のグランドデザイン案が提示されました。現行の制度的課題を解決する新たな障害保健福祉施策体系を構築する。介護保険との関係を整理する、という三点を柱とし、市町村を中心とするサービス提供体制の確立を目指した方針が検討されています。この「案」では障害保健福祉サービスの体系を再編し、障害者のライフステージとニーズを踏まえ、個別に自立支援する方針が打ち出されており、自立訓練や就労移行支援などの地域生活への移行へ資する機能を強化する事業実施を目指すことも明示されました。

国際医療福祉リハビリテーションセンターは新たな障害保健福祉施策の動きをしつかりと見据え、この地域の障害を持つ児・者の自立支援と個々のニーズに応じた社会参加に向け、最善のサービスを提供するよう職員一丸となって努めていく所存であります。

山王病院
Information Sannoh

医療法人財団順和会としての「セカンドオペニオン外来」への取り組み

近年、患者様の医療に関する知識が向上し、主治医以外の医師に治療法などについて意見を求める「セカンドオペニオン」への要望が高まっています。また、以前から高木理事長は、患者様がセカンドオペニオンを自由に求められるシステムづくりと環境整備の重要性を説いています。

山王病院においても、セカンドオペニオンを求める患者様が增加の傾向にあります。具体的には、通常の外来初診を希望して受診された方が、実はセカンドオペニオンを求めていらしたことが診察中に判明するケースや、突然に資料を持参されて「母の病気のことで意見を聞きたい」とおっしゃるケースなど、さまざまの方がいらつしやいます。また本来、セカンドオペニオンとして取り扱うべき内容であることが事前に分かっていても、病院内にセカンドオペニオンの受け入れ体制がないために、医師個人の負担が多くなる場合もあります。セカンドオペニオンには十分な時間を要することから、現状のような外来枠での対応では無理が生じます。他の外来患者様の待ち時間が通常診療以上に長くなること、医師側もその場の限られた資料と情報で意見を求められても限界があることなどが、その理由です。

一方、院内での受診歴をお持ちの患者



様から、「ご自身の診療方針や診断について他の医師の意見も聞きたい」というご要望があります。そのような患者様に対して、進んで他の医師にご受診いただくように取り計らってさしあげること大切なおことです。患者様が主治医に気を遣い、心理的負担を生じることのないように、共通理解のもとで病院が一丸となって対応していくことが求められます。

このような事情から、平成十七年四月を目処に、「セカンドオペニオン外来」をスタートすることになりました。開設に向けては、医師、事務職を中心としたワーキンググループを構成し、話し合いを重ねてきました。今後、グループ全体の連携体制でセカンドオペニオンの受け入れ体制が実現すれば、患者様へのサービス向上につながるものと思います。

今後とも、時代に即した患者様対応への追求を続けていきたいと考えます。
(山王病院 CS課)

国際医療福祉病院
Information Nishinetsu J

第一回不妊セミナーを開催
一月二五日(土)国際医療福祉病院 旧館二階会議室において、田先生(国際医療福祉病院リプロダクションセンター長)による不妊セミナーが開催されました。不妊で悩んでいる患者様にも、気軽に参加してもらえらる勉強会にしようとのコンセプトで、受付ロビーやホームページで募集したところ、冷たい雨の中にもかかわらず一四名の受講者が参加されました。

セミナーでは、田先生による「不妊症の原因」、「不妊症の治療法」などについてパソコンを使いながら具体的なデータを使って説明され、「大変分かります」と好評でした。

またセミナーの後、あたたかい紅茶とおいしいケーキを食べながら行われた質疑応答では、ゆったりとした雰囲気の中で参加者の緊張もほぐれたのが、普段の診療中には出てこないような率直な質問、悩みのご相談がありました。不妊セミナーは引き続き行っていく予定です。奮ってご参加下さい。



翔太ちゃんをとり囲んでハイチーズ!

国際医療福祉病院
リプロダクションセンター(不妊外来)
月・水・木・金・土
9:00~13:00
14:00~17:00

基本的に完全予約制です。
予約については事前にお電話等で相談ください。予約せずに来院される場合は必ず事前に診療の有無をご確認下さい。
TEL:0287-37-2221

産科分娩件数一〇〇〇件達成!!
平成十四年四月に国際医療福祉病院に産婦人科が開設され、今年で三年が経過しようとしています。山田哲夫医師(国際医療福祉大学教授)をはじめ、経験豊かな医師等により、現在、月平均約五〇件の分娩を行っております。また、平成十六年四月に、産婦人科から分離したりプロダクションセンター(不妊外来)も

開設し、最先端の不妊治療も積極的に行ってまいります。今後年間分娩件数は増加してゆくことでしょう。

そんな中、平成十七年二月十四日パレインタインデーの記念日に分娩件数一〇〇〇件目のお子様が生誕いたしました。これを記念致しまして、花束と記念品を佐藤病院長より贈呈させていただきました。そのお子様のお名前は、伊藤ご夫妻のご子息、翔太ちゃん。パレインタインデーに生まれるとは、将来チョコレートをとたくさんもらえそうで本当によらやましいかぎりです(??)。

長い人生の中で、私達は自分の生活に精一杯で、他人を心から祝福できることは数えるほどしかないのかもしれない。しかし、赤ちゃんの誕生という「輝き」はその数少ない中の一つでしょう。お母さんの本心に嬉しそうな笑顔と赤ちゃんの元気な泣き顔を見比べつつ、医療に従事しているものとしてそのような場に立ち会えることをいつも誇りに感じています。これからも数多くの「感動」を「産み」出していきこうと、スタッフ一同日々の業務に邁進してまいります。

IUHW漢方医学研究会 開催
国際医療福祉病院では、二月から三月にかけて四回にわたり、「漢方医学研究会」が開催されました。近年、個人個人の心身の状態に適合させた治療、個を重んじる東洋医学の考え方が見直され、西洋医学と東洋医学の統合が推進されるようになりました。特にこれからは、医療従事者として「漢方に対する正しい認識と理解」が必要になるとのことで、漢方



漢方に対する正しい認識と理解深耕のため開催している漢方研究会

に興味のある約三〇名の医師、看護師、各種診療技術者、事務職員が受講しました。講師として佐野厚生総合病院内科医長の内藤真礼先生をお招きし、「漢方入門シリーズ」と銘打って、漢方の概念から実際の診察・処方まで実習を交えてご講演いただきました。専門的な内容を含めながらも、初心者に分かりやすく、ご説明いただき、漢方の考え方を、個を重んじる奥深さを垣間見たような気がします。

研究会事務局は、今後も継続して公開の漢方講習会を開催し、漢方理解者の裾野を広げ当院の診療がさらに充実したものとなるよう努力していききたいとのことでした。

国際医療福祉病院では、昨年十月から「漢方外来」を開設しております。ご興味のある方は、医事課・外来受付でお気軽にご相談下さい。



勉強するなら、「医療福祉チャンネル774」

医療福祉チャンネル774では、衛星放送スカイパーフェクTV! 774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

国際医療福祉大学アワー

国際医療福祉大学の年間行事などを特集。先生方のインタビューやサークルのレポート、大学紹介などを織り交ぜた大学情報番組です。今年は開学10周年を記念して実施される様々な行事を取材放送していきます。学生の方々はもちろん、ご父兄の方々も是非ご視聴賜りますようお願い申し上げます。



平成16年度 国際医療福祉大学卒業式

国際医療福祉大学大学院講演会

大学や大学院において開催されるさまざまな講演を収録放送しております。今回は、第一回臨床試験福岡セミナーを4回に分けて放送。

- 第1回 医療、社会における臨床試験の意義
- 第2回 臨床試験の現状と課題
- 第3回 臨床試験の大学院教育について
- 第4回 臨床試験におけるCRCの重要性



第一回臨床試験福岡セミナー「臨床試験におけるCRCの重要性」
山崎 久(東京大学教授・臨床疫学)

医療福祉経営管理講座

医療福祉施設の中堅及び幹部スタッフに照準を合わせた研修講座。国際医療福祉大学医療経営管理学科の教員を中心に有名専門講師陣による実践的な講義番組。経営戦略から個人情報保護、財務会計、安全管理、感染管理など幅広く網羅された講義内容。好評放送中!
また、放送番組を全18巻ビデオセットとして販売しております。



「医療福祉経営管理講座」各30分・ビデオ全18巻セット
価格¥210,000(本体価格¥200,000)

リハビリテーションアワー

理学療法士や作業療法士の方々向けの総合番組。各協会との連携により、新人教育から生涯教育まで、さまざまな番組を制作放送中。その中から好評につき、ビデオ化されたパワーリハビリテーションの番組をご紹介します。

パワーリハビリテーション
介護予防に効果的とのデータが注目されているパワーリハビリテーション。第1回は、「(1)理論とプログラム」を放送。基本となる3つのプログラム(マシントレーニング、移動ケアプログラム、パワーレクリエーション)の具体的な実施方法を解説。講師:竹内孝仁(国際医療福祉大学大学院教授)



「パワーリハビリテーション」
各50分・全3巻セット
価格¥9,450
(本体価格¥9,000 / 送料全国一律¥500)

医療福祉チャンネルを見るには

「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカイパーフェクTV!の774チャンネルでご視聴いただけます。ご視聴には、スカイパーフェクTV!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ!

視聴料・・・月額2,100円(税込) / 法人契約:5,250円(税込)

(このほかに、スカイパーフェクTV!加入料・・・2,940円(税込・初回のみ)・スカイパーフェクTV!月額基本料・・・410円(税込)がかかります。)

IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問合せ下さい。

ビデオのお申し込み・視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774(お客さま係) Eメール info@iryoufukushi.com ホームページ www.iryoufukushi.com

デザイン:アイ・デプト

発行:国際医療福祉大学
編集部
【東京】
〒107 0062
東京都港区南青山一-14-1
アミティ乃木坂
電話 〇三二四七五七七一〇
【大田区】
〒324 8501
栃木県大田原市北金丸二六〇〇-1
国際医療福祉大学内
電話 〇二八七二四三〇〇〇



IUHW 短信

IUHW Note

昨年12月、インドネシア・スマトラ島沖で発生した津波被災者への救援を目的に、留学生会(代表:張永勝 医療経営管理学科1年)が中心となり、1月中の1ヶ月間募金活動を行った。集まった金額は63,592円。募金は、「スマトラ島沖地震救援金」として、日本赤十字社栃木県支部へ寄付された。

医学書院の月刊誌『病院』に、医療経営管理学科「福永ゼミ」学生6人の旅行記が連載される(4月号~7月号)。内容は、「バンコク病院見聞記」。昨年12月、ゼミの見学で訪問したバンコクの病院や、タイ公衆衛生省のレポート。『病院』は、病院の運営管理・経営管理に関する情報を提供している月刊専門誌。